



令和 8 年 7 月 21 日
午前・午後 4 時 28 分 受領

議長	事務局長	係	令和 8 年 7 月 21 日

No. 1

あいなん未来議会議長 吉田 茂生 殿

あいなん未来議会議員 清水 吏世
あいなん未来議会議員 河野 夏海

一般質問通告書

次のとおり通告します。

質問の要旨	答弁を求める者
1. 町民の防災意識について 地域によって防災意識や避難訓練の実施回数、参加率に差があると感じています。実際に、各地域における住民の避難訓練参加率は、内海地域では 18.7%、御荘地域では 12.4%、城辺地域では 10.4%、一本松地域では 11.3%、西海地域では 35.6%でした。このことから、津波の危険性が高い西海・内海・御荘地域では防災に関心を持っている人が多いけれど、津波の危険性が低い一本松、城辺地域では防災に関心を持っている人が少ないと言えます。住民の防災意識を高めるために、参加率の低かった一本松、城辺地区を中心に防災クイズや避難訓練、避難所設営体験などの体験型イベントを実施するのが効果的だと考えています。私は、このイベントに中学生、高校生に積極的に参加してもらうことで、若い世代から防災意識を高め、学生から親世代へと防災意識を広めていきたいと考えます。いつ南海トラフ巨大地震が起こるか分からないので、この地域間の格差をなくし、愛南町の全ての人々が防災に関心を持ち、災害に備えることが大切だと考えます。 そして、現在愛南町では、前に述べたように、地域によって避難訓練の回数に差が大きいことが課題であると考えられます。地震による避難を強いられるときには、必	町長

ず地域の住民同士の共助が必要となります。そのために、日頃から愛南町の各地域での取り組みを実施し、お互いを知っておくことがとても重要だと考えます。

また、現在愛南町には空き家が多くあります。令和4年度に実施された愛南町の調査では、約1000件の空き家があるとされています。また、旧五か町村別に見ても、どの地域も100件以上の空き家があることが分かります。南海トラフ巨大地震をはじめとする地震では、それらによる被害が大きくなることが予想されます。地震が発生する前に取り壊しておくことで、減災につながると考えます。

このように、愛南町の防災への取り組みには多くの課題が残っていると考えられる中で、私たちは事前復興、減災に向けて、次のようなことについて質問いたします。

(1) 住民の防災意識向上への取り組みについて

町では、現在どのような取り組みを行っていますか。また、今後どのような新しい政策を実施するか考えていますか。

(2) 避難訓練について

住民同士で確認し合うためや新たな課題の発見のために、各地域の高校、小中学校、保育所での世代を超えた避難訓練の実施を定期的に行うことが重要だと考えています。今後、愛南町が主体となった避難訓練の実施を考えていますか。

(3) 空き家について

空き家による被害の拡大防止への取り組みとして、それらを新しい施設の建設や備蓄庫として再活用することが減災へも、町の活性化へも効果的だと考えています。空き家の活用方法について、現時点で考えている案はありますか。